

8弾」として、駆動溶液（DS）を用いた新たな省エネ脱塩方法として注目されるFO（正浸透）膜システムを説明。参加者と意見を交わした。

講演会をライブ配信

先端膜機構 サロンで意見交換も

先端膜工学研究推進機構と神戸大学先端膜工学センターの共催による「膜工学秋季講演会・膜工学サロン」が9月29日、Web上でのライブ配信形式で開かれた。約200人が参加した。

経済産業省近畿経済産業局の矢島秀浩地域経済部長は、Society 5・0関連の取組みについて講演。同局が昨年設置した、中小企業が大学等でゲストスピーカーとして登壇する「WEBマ

ツチングプラットフォーム」などを紹介した。

そのほか、日本触媒の富田高史氏が水事業領域を中心とした新規事業創出の取組み、山口大学大学院の喜多英敏特命教授がゼオライト膜とカーボン膜、九州工業大学大学院の山村方人教授が光誘起相分離膜の非対称性について講演した。

あいさつした同機構の松山秀人機構長は、オンライン配信に期待を寄せるとともに、膜国際ワー

クシヨップやMBA講座などのイベントが控えていることを紹介した。

講演会終了後には、11のテーマで「膜工学サロン」が開催された。水処理分野では、片山ナルコの池嶋規人氏が「膜ファウリング抑制技術の実際II」と題し、膜ファウリングのさまざまな形態や膜洗浄の考え方を紹介。また、神戸大学大学院の新谷卓司教授は「RO膜スパイラルエレメント構成部材の機能と展望・第